

带状疱疹ワクチンの定期接種化について

東 海 部 会 提 出

带状疱疹は、加齢や過労、ストレスなどによる免疫力の低下により、過去に水痘に罹患した者の体内に潜伏する水痘・带状疱疹ウイルスが再活性化し発症するものであるが、昨今患者が増加している。

特に50歳代からの発症率が高くなっており、80歳までに約3人に1人が発症すると言われている。

带状疱疹を発症すると強烈な痛みで日常生活が困難になり、3～4週間ほどで皮膚症状が治癒しても、50歳以上の方の2割に神経の損傷による痛みが続く可能性があり、生活の質の低下を招きかねない。

また、治癒してもなお、神経痛などの後遺症が残る場合が多く、現れる部位によって、顔面神経麻痺、失明、難聴、耳鳴り、めまいなどの重い後遺症が生じることもある。

带状疱疹には早期診断、早期治療が大切であり、その発症予防にはワクチン接種が効果的だといわれている。

しかしながら、現在、带状疱疹ワクチンは任意の予防接種であるため、接種費用が全額自己負担となっており、高額な費用が大きな負担となっている。

よって、一定の年齢以上の国民に対する带状疱疹ワクチンの有効性等を早急に確認し、ワクチンの助成制度の創設や予防接種法に基づく早期の定期接種化を要望する。